

■ 作品について

クレス・オルデンバーグ [Claes OLDENBURG、1929-]

《反転Q》

1977-88年 樹脂 高さ 182.9×幅 177.8×奥行 160.0cm 横浜美術館蔵

ポップ・アートを代表するアーティストの一人、クレス・オルデンバーグ（スウェーデン生まれ、アメリカ在住）は、食料品や日用品など、身の回りにあるものを題材に多くの作品を制作しています。実際は小さなものをとてつもなく巨大化させたり、固いものをふにゃふにゃとした布製にするなどして本来とまったく異なる素材に置き換えたり、そうした立体作品は見慣れたモチーフでありながら見る者の意表を突きます。

本作《反転Q》は、その名のとおり、アルファベットのQを逆さまにしています。実際に作品の前に立つと、包み込まれるほどのボリュームがあり、見る角度によっていろいろな表情をみせます。真ん中には、やわらかいものに指を押しつけてくぼませたような、人体を想起させる凹みが見られ、「Q」のしっぽはほんの少し垂れておりどこかユーモラスです。オルデンバーグは他のアルファベットではなく「Q」の造形にこだわり、さまざまなサイズや素材で試行して本作を制作しました。文字という実体のないものが立体物として堂々と存在する様子は、不可思議でナンセンスな印象を与えます。巨大化し、反転された「Q」は文字としての役割から解放され、何者でもないものとして存在しているのかもしれない。

（横浜美術館）